

有限会社キタイ

■事業

マシニングセンタによる複合的加工ノウハウを用い、
金型部品加工へ進出

■対象類型

ものづくり技術

■導入機械装置

OKK 立型マシニングセンタ Vm53R

焼玉エンジンの製造、取り付けで創業 鋳物鋳造を経て機械部品製造を手がける

【経営理念】

低コスト高品質で、お客さまに良質の製品を提供する

梱包用機械や工業用ミシン部品の製造を手がける有限会社キタイ。2代目が、1939(昭和14)年に、小型漁船の焼玉エンジンの製造、取り付けの業務を継承して創設したが、戦時中は軍需工場となり、戦後は、機械部品の製造、キューボラを使用した鋳物鋳造を手がける鉄工所として操業した。3代目が業務拡張を図って食品スーパーなどを展開したこともあるが、約20年前に業種を金属製品の製造に一本化した。

動力機械の焼玉機関は、明治30年代に米国から日本に入り、急速に広まった。明治末期には中小型漁船向けに焼玉エンジンが誕生し、戦前まで進化を遂げながら国内各地の鉄工所で生産されていた。日本海沿岸の大社町に工場を構える有限会社キタイの前身事業所でも、現代表の祖父に当たる初代が小型漁船、いわゆるボンボン船の焼玉エンジンを製造、取り付けを生業とした。

市場開拓を目指し高回転主軸の機械を導入 一点物が増加し量産品と製品割合が半々に

ものづくり補助事業を活用したのは、4代目の北井崇博専務取締役。14年前に家業に入った時点では安定した経営につながる量産物が9割を占めていたが、単品物の付加価値が高いことから、一つ一つ図面が異なる金型部品加工にチャレンジするようになっていった。さらに、新規市場を開拓するため、高回転主軸の機械で工具を自動交換する「立形マシニングセンタVm53R」の導入を決めた。

金属加工には不要な部分を削り落とし目的の形に仕上げるNC工作旋盤が使用される。なかでもマシニングセンタは、高い精度が求められる金型を製造する際に使われる工作機械で、この機械の導入により、既存設備では対応できなかった加工精度のアップと時間の短縮を実現することが可能となった。また、加工サンプルを取引見込みのある関連企業に提案し、高評価を得ている。現在、単品物の受注が増え、量産との製品割合も半々となった。



北井崇博 専務取締役



1 マシニングセンタ



2



3

2 マシニングセンタ操作盤
3 製造された部品

複合的加工ノウハウを応用し 金型部品加工分野で優位性を確保

新しいマシニングセンタの導入は仕事の幅を広げ、さまざまな加工を経験することでノウハウが蓄積されていった。図面を見てから作業に取りかかるまでの時間の短縮、作業中のミスの減少など、製造コストも下がってきている。今後も複合的加工ノウハウを応用し、金型部品加工へ進出。金型を一貫製作するメインユーザーから、金型部品加工の受注を獲得し、収益の拡大を目指している。

また、ターゲットとなる市場として、農機・船舶といった産業機械向け金型を想定している。金型市場全体としては、依然として大きく、現在も市場は概ね拡大している。従来持っている複合的加工ノウハウに高能力マシンが加わったことで、今後も需要が見込まれる金型部品加工分野で、低コスト・高精度・短納期といった強みを発揮し、優位性を確保することを視野に入れている。

■Company Data

有限会社キタイ



工場内

代表者名：北井 庸雄
設立年：1939(昭和14)年
資本金：3,000千円
従業員数：6名
主たる業種：金属製品製造業
本社：〒699-0721 出雲市大社町修理免 785
電話：0853-53-2317
FAX：0853-53-3655